

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 2 号

昭和56年 3月14日発行

編集者 田代茂年

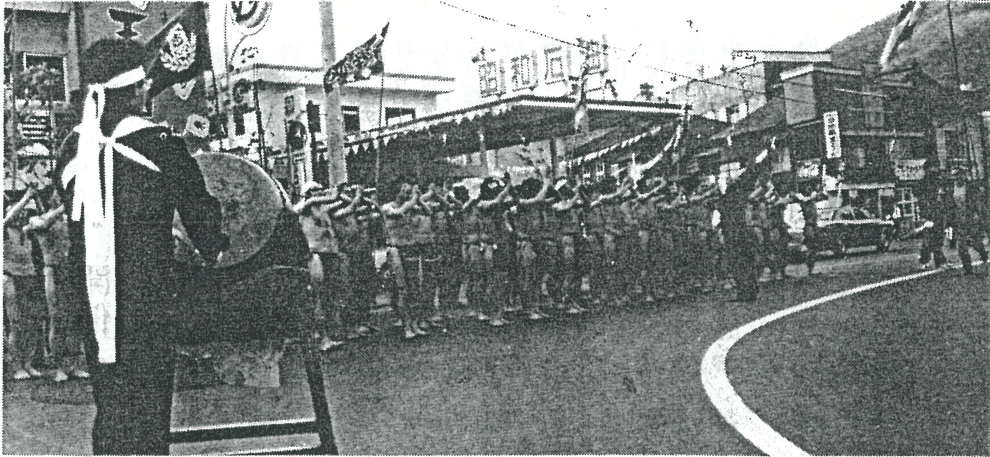
発行 北里大学水産学
部同窓会

(連絡先)

〒150 東京都渋谷区恵比寿 3-
39-2 (長屋)

振替口座 第一勧業銀行大手町

支店 008-1182388



身近な三水会づくりをめ指して

三水会副会長 大野良樹

水産学部同窓会「三水会」が発足してから、早くも一年が過ぎようとしております。この一年間に、三陸での就職ガイダンス、会報第二号の発行などなど、なんとか運営も軌道に乗りつつあります。皆様の暖かなご支援とご協力に対して、改めてお礼を申し上げます。

私にとって、同窓会の運営などという仕事は、初めての経験ですので、何をして良いのやら、右往左往の連続ですが、幸いにも、他の役員に有能なスタッフがそろっているので安心はしております。

三水会は、会員相互の親睦を計り、会員の社会的発展と水産学部の発展に寄与することを目的として生まれましたが、この目的を達するためには何をすれば良いのか、私にとっては暗中模索の状態です。しかし、おぼろげながら幾つかの道が見えております。

まず、三水会を会員にとって身近かな会にしてゆくということです。そのためには、第一に、会員との連絡を密にすることであると思います。三水会はまだ発足したばかりで、会

員数も八百に満たない規模ですが、すでに住所が不明で連絡をとることができない会員がいらつしやいます。まず全会員の連絡先を明らかにすることに、力を注がなければならないと思っております。

そして、会員のご意見を広く集めなければならぬということです。第二回の総会も近々開催が予定されておりますので、とにかくどんなご意見でも、ご不満でも、ご要望でも身近な代議員、役員を通じてどんどんお寄せ下さい。

さらに、今後は会員が気楽に参加できる催しを企画してゆきたいと思っております。例えばスキーツアーとか、花見だとか、運動会であるとか、何でも良いのですが、とにかく会員が参加して、交流の輪がどんどん広がる様にして行きたいと思っています。

もう一つ、三水会の大切な役割は、水産学部在學生と卒業生との橋渡しをするということです。そして、卒業生は新しい職域を開拓してゆくフロンティアです。だからこそ、就職に際して情報の少なさに不安を抱いた方は多いと思います。その不安を

少しでも減らすことができる様に、実際に社会で活躍している会員の皆様の、生きた情報をより多く、在学生に提供できる様にしてゆきたいと思っております。

水産学部も、今年三月には第六期卒業生を送り出し、創設十周年を迎えようとしておりますが、実社会においては、水産学部同窓生はまだ小さな芽にすぎない様に思います。しかしこの芽は、いつか大木に育つ芽であると思います。そして、水産学部はその根っこだと思えます。その根がしっかりと大地をつかみ、その幹が太空に向かって高く茂る日が来ることを確信しております。その大木がもつともっと大きく伸びて行くために、三水会が少しでも役立つことができればと思っております。

ともかく、同窓会の発展は、同窓生諸兄、水産学部の証しとなるものです。そして、同窓会の発展は、会員の皆様の積極的な参加なくしてはあり得ません。人生において最大の財産は友人であると申します。どうか三水会に積極的に参加することにより、交流の輪を広げ、友人という財産を大いに増して、これからの人生を豊かにしていただきたいと思います。

第8回

「漁火祭—SUNRIKU'80—」

開催される



漁火祭
実行委員長
柴尾 幹尚

ここ三陸の地にも、紅葉の季節がおとずれ、まもなく通り過ぎようとしている。肌寒い夜空、満天の空には、オリオン座がうかび、首崎に灯がともる頃、初冬の海には、漁火が輝くころ、我々の「漁火祭」の季節である。

十一月十三日には、有志による、PR部隊が、野武士、ロボット、田吾作、赤んぼう、小学生、中には、頭を十字モヒカンなどにした者など、みんないろいろな趣向をこらして、盛、大船渡で釜石で、踊り唄い、笑われ漁火祭を盛りあげていった。

十一月十四日は前夜祭である。毎年好例となっている大漁踊りである学らん隊、赤ふん隊などの有志を乗せたバス二台一〇〇人あまりの学生は、崎浜、浦浜、盛、大船渡、釜石と、恥や外聞をかなぐり捨てて、唄

い踊りまくりました。今年は、知名度の低かった釜石で二カ所で行った。又釜石では警察署前からホストまでの行進を行い、釜石の町を一キロ唄いながら、歩いた。雪のふる中での赤ふんは、さぞかし寒かったであろう。みんな漁火祭の為にがんばってくれた。

ついに本祭に入る、今年のテーマは「SUNRIKU'80」である。八〇年代の水産又八〇年代に北里大学水産学部がもつ意味などを、考えてこのテーマとした。SUNRIKUのSUNは、太陽にひっつけたものである。

参加団体は、ヨット、跆拳道、潜水、アメフト、卓球、剣道、少林寺、ラグビー、スケート、ワンゲル、テニス、空手、アーチェリー、陸上、野球、バスケット、サッカー、柔道、ボディビル、バレー、弓道、軽音楽、路の会、人形劇、写真、生物、北釣会、水産研究会、ESS、天文、美術、演劇、などのほとんどのクラブ、又増殖研究室、環境生態研究室などの研究室、そして今年は、十和田獣医、畜産学部よりの友情参加などがあつた。

初日の土曜日は、三陸名物の風の為、テントが飛ぶなどいろいろなアクシデントにもかかわらず、各模擬



店もがんばっていたようである。

今年は、講演は、神谷先生の「海の生物から『薬』をつくる？」で海の生物の薬としての実用化についていろいろな話を聞かせていただきました。又バネルデイスカッションでは「ロブスター養殖の問題点」ということで行った。一九七六年、第四回北里祭において「三陸沿岸の養殖の現状と今後のノリ、ワカメ養殖の一般について」という座談会が行われましたが、今年は八〇年代の三陸の養殖としてロブスターのもつ問題を、今回は研究者の立場、実際に調理する立場、養殖する立場、行政および一般学生の立場から、ロブスターの企業化への問題点を討論した。

恒例のみこしも、日曜日の早朝、崎浜漁港より大学まであげ、祭の雰囲気盛り上げた。演芸大会、ソフトボール大会も一般の人たちの参加によりカラオケでならした「のど」、草野球でならした「うで」が、学生とぶつかりあつて、みんなでお祭りをたのしんでいた。

各クラブの方も、少林寺のオデン、甘酒、峠道のタコ焼き、豚汁、スケートのフライドチキン・フライドポテト、バスケット・バレーの焼鳥、空手のスパゲッティ、陸上のおこのみ焼き、サッカーのたこ焼、ラグビー

の焼そば、ボディビル焼トウモロコシ、卓球のホットドッグ、柔道のクッキーと、みんな、自炊の時のうでの見せどころである。

又、テニス同好会による、オープンテニス、野球同好会のバッティングセンター、アーチェリー・弓道による当り矢、などの参加できるもの、剣道部、アメリカン・フットボール、ヨット部によるデイスコなどの体育会のクラブによるいろいろな模擬店。又文化会各クラブなどによる、展示には、路の会による岩手各地の紹介、人形劇による「かちかち山」などの人形劇、演劇による「仮面と素顔・さらば映画よ」の芝居、天文、写真によるパネルの展示、美術同好会の作品展示

ワンダーフォーゲル同好会による、山の道具の展示、生物同好会による、三陸の自然の展示、北釣会による、釣具の展示、ESSの英語をおもしろくする企画、水産増殖学研究室による甲殻類についての研究発表、環境生態学研究室による、オーブンサンプリングなどの研究室の参加。

体育館での軽音楽部によるコンサートなど各クラブ、研究室などによって、「お祭り」は行われました。

テーマ館は、潜水部、水産研究会、研究室の協力により、三陸の海につ

いての調査研究を発表展示しました。漁火祭の夜、我等の祭は今終った、三陸の海に漁火がならぶころ、我々の後夜祭が初まった。軽音楽部の演奏の中、みんながやった祭によいしれ、踊りまくり、どうあげをし、みんな、感動している。最後にみこしを上げ、我々の祭はここにピリオドをうった。

今年で「漁火祭」も八回目をむかえ、諸先輩方からうけつがれた「漁火祭」という名もいまでは、すっかり北里祭の一つの顔として、学生及び地元の皆様方にも、とけこみしました。

テーマは、八〇年代に入った今年、我が北里大学水産学部のあるべき姿を見直し、今まで諸先輩方からつかわれてきた我が大学のカラーを確立する意味で、「SUNRIKU '80」としました。

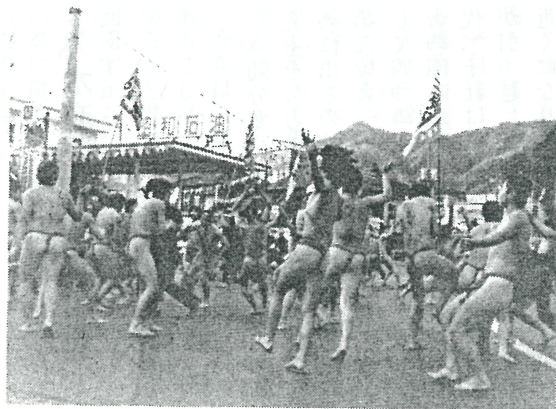
自己表現の場として、参加することにより北里大学の学生である自覚を生み、新しい友を作るこの漁火祭が学生生活四年間に、対して大きな意味を持つものと思われる。

前夜祭である大漁踊りも、一〇〇人あまりの参加者をのせたバスも、盛、大船渡、釜石の町を回り、釜石では町の中を行進し、お祭りの雰囲気をもり上げました。前夜祭も地元

に完全に定着して、地元の人々からも期待され、多くの、見物人の中で大漁踊りができたのも諸先輩方の努力のたまものと考えております。

漁火祭も北里大学水産学部の一つの面として、三陸の地の、秋の祭りとして、我々学生の祭りとして、これから我が北里大学水産学部のつくろかぎり、よりいっそう充実した物にしていきたいと思ひます。

今年も「漁火祭」を行うにあたり、諸先輩方の暖かいご協力をいただきまして本当にありがとうございます。学生を代表してここに深甚なる感謝を致します。



「水産利用学 研究室」

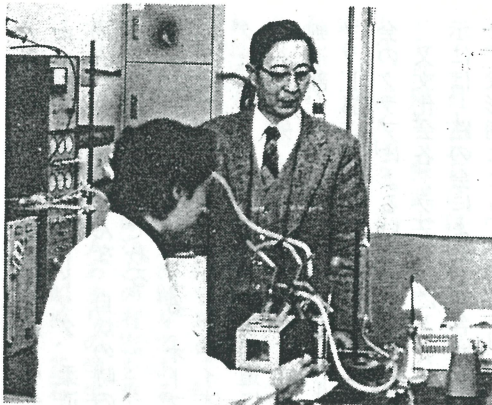
教授
太田 静行

二月の始めの研究室はどことも同じで、卒業論文作成のために、皆おそくまで、がんばっています。
卒業生諸君も記憶にあると思いますが（全く記憶にない人は幸いです）と思いますが、二月月上旬にはその年の追再試があり、それを受けている諸君もいます。水産食品学科では、例年同様、「食品物理学」、「冷凍工学」などが難関のようです。英語、ドイツ語で苦労している人々が多いことも例年の通りです。
二月九日に、例年より少し早く、私共の研究室では卒論の発表会を開きました。研究室で行なっている研究テーマを卒業論文のテーマで代表させると便利なので、当日行なった

発表の題目を列挙してみましよう。

- シロサケプロオピオコルチン関連ペプチドの分離と精製
- シロサケ成長ホルモンの単離とその特性
- くん煙成分の食品への滲透の程度
- スモークウッドの改良
- 油脂の自動酸化に対するシリコン油の効果
- アルカリさらしにおける脂質の挙動
- ほやの脂質
- ほやのフレーバー成分
- 油脂の変敗臭と官能的評価

これらの研究は以前から継続しているものが多いので、卒業生諸君の中にはなつかしく思う人もあるでしょうし、また「まだやっているのか」



と思う人もあるでしょう。

当日の晩は丸八旅館で新しく配属になる三年生も加わって、例年のようにコンパを開きました。今年はまだりあはる人はいませんでした。

研究室の先生方の近況としては、

私はお蔭様で元気です。北里大学が二月三日以来、NHKなどでニュースによくとりあげられましたが、その折にチャリと私の姿が出ていたようです。（この北里大学医学部の問題はそのうちに片付くと思いますし、北里大学の世間の評判は悪くないので、卒業生諸君は決して自信をなくすことがないようにお願いしたいと思います。）

川内浩司先生はプロラクチンに関する学会で発表のため、アメリカのカリフォルニアのベンチュラという所に行き、二月始めから二十日まで米国に出張中です。

日下兵衛先生はこのところ健康を害されましたので、約二ヶ月入院して、四月にはお元気な姿を大学にあらわすことになりました。

中野真知子さんは教務課が多忙のため去年七月にそちらに移り、机は学生諸君が時々データー整理などのため使っています。

大学院の諸君もがんばっているいろいろな業績をあげています。

「水産増殖学研究室」

鈴木助教
福代 助手

「随分変りましたね。」卒業生が研究室を久方振りに訪れた時、まず初めに出るのは決まってこの言葉です。第二校舎一階にあった加工室を改造して四つの小研究室を作り、第一校舎の四階から、橘高先生と筆者（福代）それに橘高先生に師事する学生が引っ越しをしてからもう既に二年近くになります。

変ったのは部屋だけでなく、研究についても同様で、ここ数年の間に大きく前進をしています。特にロブスターは、昨年は卵から稚エビになるまでの生残率が遂に50%を越えるという好成績を残すまでとなりました。これは、研究室が実験水槽に近くなり、抱卵している親エビや孵化した幼生の世話や観察が充分にできるようになったことも理由の一つですが、それよりも大きなものは、一期生から続いて培われてきた創意工夫と努力の賜物と思われれます。例えば、ロブスターの幼生は池に水の流れを適度に付けないと共喰いをして、囲いのネット地に目からまっ

て斃死することがありますが、池の水の流入口にパイプをつけ、瀑気もうまく調節して利用することにより問題を少なくすることができま

す。この瀑気の調節には細やかな配慮が必要ですが、大学院生の千田憲明君をリーダーとする四年生グループが絶妙の勘と技術で設計・配管工事等すべてを成し遂げました。そこには

一期生の鶴田稔君や二期生竹内康弘君、四期生梶原洋君など大勢の先輩のアドバイスも重要な力となっており、それこそ増殖研究室の卒業生を含めた全員の力と言えらると思

います。ロブスターは幼生から一人前に性成熟して親になるまで数年かかると言われています。大学では、一期生が卒論に取り組んだ昭和五十年に、橘高先生が初めてアメリカから運ん

できた親ロブスターの抱いていた卵から孵化したエビが一昨年性成熟して交尾し、更に抱卵しました。俗に

言えば二世誕生というところで、橘高先生も大層喜こばれ、親エビを運んできたマサチューセッツ州の名をとってマーサと名付けられました。このマーサの抱いた卵から孵化したエビも今では随分と大きくなり、再来年あたりには三世誕生も見られる

かもしれません。

また、現在大学にはアメリカ産の



ロブスターとヨーロッパ産のロブスターの二種が飼育されていますが、昨年はこの両種を交配させ抱卵させることにも成功しました。この実験は両種の分類に係わる重要な生物学的研究ですが、同時に、この交雑個体の成長がとても良いことから養殖の面でも重要な研究となっています。昨年夏にはアメリカ東海岸にあるロード・アイランド大学でロブスターの生物生態学を研究されているJ.S. COBB博士が二週間程北里大学に來られ、三陸でのロブスター養殖の多くの成果を御覧になって大変感心されていかれました。(写真、

右より二人目手前が橘高先生、その左側がCOBB博士)

筆者(福代)は一昨年から東北大や北里大の食品衛生研究室・生物化学研究室と協力して養殖貝類の毒化のメカニズムについて研究を進めており、調査海域が近いという地の利を生かして貝毒原因ブランクトンと数種発見する成果をあげています。

サケの話も致しましょう。今年度の三陸漁場はサケでわきました。小壁の定置網が本州一の十九万尾の漁獲を挙げ、定置の漁師は金比羅参りに皆で行くとか、片岸川も十五万尾が溯上し、全国河川の第四位、浦浜川にも放流効果がでてきて、一万二〇〇〇尾があの小川にのぼったのです。

在校生の新巻作りも活潑で、イクラや燠製も大々的になっています。新聞の岩手版に写真入りで、北里大生の新巻作りの模様が報道されるほどです。

サケの値段の方はちょっと問題で、暮までは雌の腹子入りで、一kg当り八〇〇円でしたが、正月には暴落し、一五〇円でしか売れなかったそうです。一タル入ってからの浦浜川では、雌ザケ一尾選り取り千円で売ってくれます。誰か来年はイクラの大量買

付けに来てくれませんか? 越喜来漁協が大歓迎ですよ。

さて、サケの研究も活潑です。環境生態研が盛川、片岸川、浦浜川で溯上魚の形態測定病理研が飼育稚魚の病気、生理研が円形水槽でサケを産卵させ、心電図や、筋電図をとり利用研が脳下垂体ホルモンの抽出、又新しい加工の方法にも取組んでいます。

増殖研も精子の運動や受精の問題をやってきましたが、この二年間約十萬尾の稚魚の放流を行なっています。この稚魚は発眼卵を漁協から譲り受け、孵上まで室内で飼育します。その後、四月からは増殖学実験の一環として三年生が毎日餌をやり、約一ヶ月後に放流します。さて放流する場所が問題です。

大学の総ての水が第四校舎の下から沢となって海に注いでいます。あの海へバケツで運んで放流しました。でも戻って来て溯上する川がありません。

今年は三年目、回帰してくる群もあるでしょう。本格的に川作りに張切ろうと思っています。なにしろ、回帰率から計算すれば、約二〇〇尾の親魚が、溯上する川を探して、あの湾に戻ってくるようになっていくのですから。

職場紹介

卸売市場制度

の概要について



カネサン水産(株)
常務取締役

伴 圭司

私達水産学部出身者は大かれ少なかれ、水産業務に着く以上、卸売市場についての知識が必要に成ります。そこで今回、私の父が築地市場に会社を構える関係上、少し卸売市場制度について書かせてもらおう事に成りました。

生鮮食料品等の流通上重要な役割を果たす卸売市場法は、昭和四十六年七月一日改正施行されたもので、これにより市場の整備規制等が行なわれております。

卸売市場制度の対象となる卸売市場とは、魚類、野菜、果実、肉類等の生鮮食料品の卸売の為に開設される市場であり、卸売場、自動車駐車場、その他の生鮮食料品の取引等に

必要な施設を設け継続開場するもので公開的かつ統一的な運営原則のもとに、多くの出荷者から委託を受け、又は買い付けて販売する少数の卸売業者（築地市場では中央魚類(株)外四社の卸売会社「荷受」と云われる）と多数の買手（我々仲卸業者……仲卸人とも云われる……売買参加者）

による取引の場です。仲卸業者は、中央卸売市場において店舗をもち、卸売業者から買い受けた物品を仕分け調整して小売業者及び、大口需要者スーパーマーケット等に販売します。又専門的な観点からの評価能力……セリ又入札等……により、市場における価格形成に重要な役割を果たしてしています。尚卸売市場は以下の三つに分けられます。

①中央卸売市場……重要な都市及びその周辺の地域における生鮮食料品等の円滑なる流通を確保するため卸売市場法に基づき、農林水産大臣の認可を受けて開設される市場……

②地方卸売市場……中央卸売市場以外の卸売市場で、その基準は市場面積によって行なわれています。青果の場合は三、三〇〇㎡以上、水産物は二、〇〇〇㎡以上、肉類は一、五〇〇㎡以上です。

③前記二市場以外の卸売市場で、卸売市場法において具体的な規定は

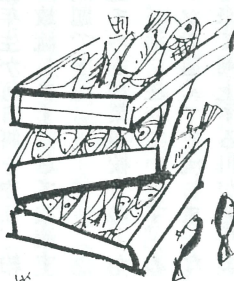
有りません。

次に中央卸売市場に於る売買取引ですが、――

我社（鮪専門）を例に説明しますと、先ず卸売業者、築地の中央魚類、東都水産、大都魚類、東市、第一水産等から我々仲卸業者が毎朝セリ場において、セリ及入札によって買い取り、それを場内の店舗において解体調整して小売業及びスーパーマーケット等に流す方法と一方、セリ及び入札で買った品物を工場においてサク取り……すぐ刺身に出来る形……スーパーマーケット等に納品すると云うものです。つまり初めにも書いた様に仲卸業者で有る我社はセリ及入札で買い取った鮪を解体調整し商品化する事、又その規格性、貯蔵等によって、小売業者及びスーパーマーケット、ひいては消費者に対す安定した物品又は品目、品質を供給するための重要な役割をはたしていると言えます。

最近のように、生鮮食料品の流通が全国的な大量流通に発展していることから、益々多種大量の物資が集積する中央卸売市場に於ては、仲卸業者の役割の重要性が高まりつつ有ります。此の為卸売市場法では、仲卸業者は原則として処置されることとなっています。

此様に流通上重要な役割を果たす、市場関係者及び流通業務に就く我々卒業生では「北里大学水産会」を設立し現在相互協力の下基を作る努力をしています。まだ人数も少ないためもし関係諸兄が有りましたら私まで連絡を頂きたいと思っております。



食品加工に従事

して



松島 俊樹

私の勤務する(株)鎌倉ハム・クラウン商会は、昭和三十七年に創立された若い会社で、横浜市磯子区にあり、ウインナーソーセージを主体に、ハム、ベーコン等の食肉加工品の製造メーカーです。

会社の特色として、添加物の加えられてない無添加ハム、ソーセージ等食品の原点に還る商品の製造を行なっています。

これは、会社がハムソーセージ業界の発展と共に着実に伸びて来ましたが、食生活の洋風化もや、落着きをみせ、ハム、ソーセージの内容品質について見直しが必要とされる時期を迎えました。

この様な背景の中で、他社と競合しない商品で、かつ食品公害等に基づく各種の規制の強まりつつある中で、消費者が安心して求められる製品の開発に取り組み、この結果、無添加製品が生み出されました。

流通経路としては生協とタイアップすることにより消費者直結という新販路を開拓し、東京、神奈川を中心に、中部、関西方面、学校給食、自衛隊関係と商品を出荷しています。現在、私は製造部第一製造課係長として、原料処理、加工、充填と、ウインナーソーセージ工程の中で加工工程の責任の一端を担っています。

この工程は、原料肉と調味料、香辛料、氷水を加えて、強い粘着力が出るように練り合せることで、一見簡単なような仕事であります。練り時間、練り温度とが重要なポイントとなり、ソーセージ製造工程の中

で最も重要となり、ソーセージの良否を決めてしまっています。

また、この工程は、ライン工程の始まりとなるため、他の人より早めに仕事にかかりスムーズに仕事が流れるようにし、一日の予定量をこなし終ったら、翌日の準備と忙しい毎日であります。特に十二月は一番忙しい時期となりますが、この時期から二月にかけては寒さとの戦いでもあり一番つらい時期でもあります。

毎日毎日が同じ事のくり返して、だ性になりがちで、気のゆるみや、ミスをおこしてしまうこともあります。点は細菌汚染の防止、異物混入防止等の衛生管理の問題であります。

ハム、ソーセージは動物タンパクとして人間活動の重要な、エネルギー源として、食品加工にたづさわっているものとして人間社会の発展へ貢献出来るのが仕事の張り合いとなっています。



「第二回三水会総会の開催について」

— 会員の方も是非ご参加ください —



来る四月四日(土)午後五時より白金校舎の新装なった本館で第二回三水会総会を開催することとなりました。総会には代議員、役員が出席いたしますが、会員の方々も出席され意見を述べる事が出来ます。

また、総会終了後午後六時よりやはり本館内で茶話会を催します。ちょうど東京で水産学会が開催されますので、水産学部の先生方も多数ご出席願えるものと思われしますので、会員の方も是非ご参加ください。参加費は無料です。

(当日案内板を出します。)

会費納入のお願い

三水会の運営費は、卒業生の終身会費と全学同窓会からの部会助成費によって賄われております。

部会助成費とは、七期生以降の終身会費を入学時に全学同窓会費と共に納入してもらい全学同窓会より助成金として還元してもらうものです。また、既卒業生の終身会費、これは一期生から六期生がそれに該当しますが、終身会費五、〇〇〇円という事で納入をお願いしております。以上が本会運営費のすべてでございます。三水会は生れたばかりです。しかし、続々と後輩は続き本会も受けつがれ成長してゆくののです。

どうか本会の主旨にご賛同のうえポケットマネーを、へそくりを、笑顔で今すぐ同封の振込用紙と共に銀行に行き納入していただきますようお願い申し上げます。

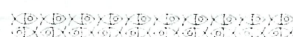
振込用紙のない場合は、各銀行に振込用紙がありますので会報表紙に印刷された口座番号に振込んで下さい。

就 職 状 況 (水産学部)

卒 業 年 度		50 年 度		51 年 度		52 年 度		53 年 度		54 年 度	
学 科		A	F	A	F	A	F	A	F	A	F
卒 業 生 総 数		76	49	96	48	77	41	97	64	98	73
状 況	就職希望者数	50	41	77	44	62	33	73	55	80	68
	就職決定者数	50	41	75	44	59	33	73	55	80	68
	就 職 率	100%	100%	97%	100%	95%	100%	100%	100%	100%	100%
就 職 先 内 訳	規 大 企 業	18%	22%	25%	28%	8%	30%	16%	36%	24.4%	26.6%
	模 中 企 業	44	41.4	28	37	32	37	27	34	25.6	45.3
	別 小 企 業	16	24.4	33	23	34	24	32	22	39.7	20.3
	国・地方公務員	12	4.9	9	5	14		11	4	5.1	3.1
	国公立病院	2	4.9	4	2						
	その他の病院	4		1		5	3	3	4	1.3	
	教育関係	4	2.4		5		3	3		2.6	1.6
	各種団体					7	3	8		13	3.1
進 学 ・ そ の 他	大 学 院	2名	名	1名	1名	2名	名	名	1名	3名	2名
	研 究 生	4	2	2		3	3			3	2
	自 家 営 業	6	2	9	1	7	3	6	3	2	4
	無 業	6	4	9	2			17	4	2	
	そ の 他	8		8	1	4			1	10	1
求 人	求 人 件 数	204件		214件		186件		208件		308件	
	求 人 延 人 数	1309人		1112人		526人		322人		882人	
就 職 先 所 在 地	京 浜 地 区	44%	59%	60%	66%	63%	49%	49%	69%	52.5%	61.8%
	東 海 地 区	2	5	3	2	7	3	6	10	12.5	5.9
	阪 神 地 区	16	12	20	9	8	12	8	7	6.3	8.8
	東 北 地 区	10	10	9	5	5	15	12	7	6.3	1.4
	そ の 他	28	14	8	18	17	21	25	7	22.4	22.1



編 集 後 記



八十年代初めの年、国内外や身边周辺には明るい話題の少ない近頃ではありますが、冬から春へと移るこの時季は、不思議と何か良い事が始まるような気分になるものです。

早いもので、もう会報二号となりいよいよ内容充実へとガンバラにやいけないのですが、頭で思うようにはまとまりがつかず、また足並みもそろわず考へてうちに出来てしまつたという感じなのです。ほんとうはもっと会員方々からの意見や感想、もろもろの伝言等が来るかなあと期待してたのですが……。というわけでこの少しのスペースで、例をあげて個人的にやってみたいと思います。

☆万座スキーツアー

ところ 万座ジャンピアレージ

とき S 56 2/11 2/15

交通 各自所有の自動車

費用 もしくは国鉄

費用 一泊五千円程度

詳しくは二期〇〇まで

以上(あくまでも例として)

という内容でかまいません。

スキーやテニス、同期会、部会の集まり等々内容はいつさい問いませんので何でも連絡して下さい。

もちろん、会報や三水会についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

以上